

## 府中東高校 令和5年度

## 年間授業計画

教科：(地理歴史)科目：(日本史B) 対象：(第3学年)

使用教科書：日本史B(実教出版)

使用教材：

	指導内容	(科目名)の具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定時数
4月	第9章 近代への転換 1、開国	・産業革命を経て資本主義社会に移った欧米諸国は、植民地や市場を求めアジア進出を強めた。その結果として不平等条約を締結し、国内の混乱が起こり、庶民・下級武士らの攘夷意識を書き立てたことを理解させる。	知識・関心・意欲	10
5月	2、明治維新 3、四民平等と富国強兵 4、初期の外交と国内政治	・政治の主導権をとった公武合体派は、幕府と薩摩藩などが政治体制をめぐって紛糾した。薩長は同盟を結成し薩長両藩はどのように倒幕派が形成されていったのかを理解させる。 ・新政府は、戊辰戦争を全力であたる一方、五箇条の誓文・政体書を発布して、天皇を中心とする中央集権国家の道を歩んだ過程を理解させる。 ・新政府は、欧米列強に対抗できる国力をつくるために、殖産興業政策を推進し、欧米の先進技術を導入して、積極的に資本主義化を推し進めたことを理解させる。	知識・関心・意欲 定期テスト ノート提出	12
6月	第10章 近代国家の形成 1、民権運動の展開 2、立憲政治への道	・廃藩置県後、右大臣岩倉具視を全権とする使節団は、条約改正の予備交渉と文物・制度などを調査するために視察に出かけ、政府は富国強兵政策の重要性を感じたことを理解させる。 ・征韓論争の分裂が、士族の反乱と自由民権運動という別々の有司専制批判を生み出したことを理解させる。 ・明治14年の政変における主導権争いの対立構造に着目し、そのなかで伊藤博文が中心的な役割をはたし立憲君主制を創出することに留意する。	知識・関心・意欲	13

	指導内容	(科目名)の具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定時数
7月	3、初期議会と日清戦争	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条約改正経過について、日米修好通商条約以来の不平等条項に留意させながら、寺島外交、大隈外交・青木外交の個々の交渉経過の特色を押さえる。</li> <li>・大日本帝国憲法は、議会開設を認めたが、帝国議会はさまざまな制限を受け、広範な大権をもつ天皇がその上に存在した。その際、条文の中でとりわけ統帥権・輔弼責任の内容に把握に留意させる。</li> </ul>	知識・関心・意欲 定期テスト ノート提出	12
8月				
9月	4、政党の進出と日露戦争 5、産業革命と社会の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1880年代半ば、英露の世界規模での対立の影響が朝鮮にも及び、東アジア世界は急速に変化していった。朝鮮支配をめぐる日清の対立が、こうした列強関係に強く規定されていくのが、この時期の特徴と理解させる。</li> <li>・産業革命の進展は一方で資本主義の負の面を拡大させた。</li> <li>・日露戦争をヨーロッパ列強の対立やロシアの極東政策といった世界的視野から理解させる。</li> </ul>	知識・関心・意欲	12

	指導内容	(科目名)の具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定時数
10月	第11章 両大戦間の日本と市民文化 1、第一次世界大戦 2、大戦後の内外環境 3、政党政治の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軍部の横暴に対して、第一次護憲運動の広がりや護憲運動の限界についても考えさせてみたい。</li> <li>・第一次世界大戦が史上かつてない規模での戦争で総力戦であったことを理解させる。</li> <li>・大戦景気がヨーロッパ先進国との競争がアジア市場や国内市場で一時的になくなったためにおこったことや、この間の重化学工業化もきわめて立ち遅れたもので、それも英米に依存しなかなければならないものだったことを留意させる。</li> </ul>	知識・関心・意欲 定期テスト ノート提出	13
11月	第12章 十五年戦争と日本 1、満州事変	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関東大震災の際の朝鮮人・中国人の大量虐殺や社会運動家虐殺は民衆の排外意識を克服できなかったという点で当時のデモクラシーの限界を示しておきたい。</li> <li>・米騒動の最中から労働争議は続発し、労働者の組織化は進んだことを理解させる。</li> </ul>	知識・関心・意欲	13
12月	2、日中戦争	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦後、欧米列強間に国際協調と軍縮を求める動きがおきたが、その一方で、ドイツやイタリア、中国では、欧米列強間の国際協調体制の見直しを迫る動きが起きたことを理解させる。</li> <li>・関東群を中心とする軍部は、「満州は日本の生命線」を理由にして満州事変をおこし、中国東北地方を軍事占領し、「満州国」を建国した。ここでは、「満蒙の危機」認識が侵略行動の根底にあることを理解させる。</li> </ul>	知識・関心・意欲 定期テスト ノート提出	12

	指導内容	(科目名) の具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定時数
1月	3、アジア・太平洋戦争	<p>・ヒトラーやムッソリーニの動きと、これを黙認するイギリスとフランスの動きなど、そうした国際情勢の中で、二・二六事件がおき、天皇のもとに軍部独裁体制が成立していくことを明らかにしていくことに留意する。</p> <p>また侵略戦争を開始するためには、軍部が政治的発言権を強め、反対勢力を武力を背景に押さえこむ必要があったことに気付かせたい。</p>	<p>知識・関心・意欲 定期テスト ノート提出</p>	8
2月				
3月				